



No. 65

2008年3月発行

新潟県支部報

マイスコープ

番神海岸のクロサギとコクガン

柏崎市 小林 成光

陽気に誘われ、久しぶりに地元柏崎の番神海岸に出かけた。

岩礁でクロサギが餌を漁っている。しばらく見ていたが、魚を捕らえた様子は無い。悪戦苦闘しているようだ。一瞬、翼を広げ日陰をつくる動作をした。波に映る陽の光が、採餌の妨げになっているようだ。がんばれ、が

んばれ、腹ぺこ君。

近くで、スローモーなコクガンが、たった1羽で寂しげに餌を採っていた。お〜い、君、仲間はどうした、喧嘩でもしたんかい。

①～③：餌をねらうクロサギ

④：岩礁に来たコクガン

(2007年11月25日 撮影)



①



③



②



④

魚野川での野鳥観察

魚沼市 桑原和寿 桑原景子

魚沼市の魚野川と観察地

信濃川の支流である魚野川は、越後三山を背景に魚沼市の小出地区まで来ると川幅も広がり流れも一見落ち着いているように見えます。しかし、流れの速さや水の深さはまだ複雑に変化があり、中州の出来具合や岸の状況など、わずか数キロの間にも多様な環境を作り上げています。この付近の左岸はすぐに丘陵地帯へとつながり、右岸からは佐梨川や破間川等が合流するなど周辺の様相も単純さが無く、四季を通じて豊かな自然が人の暮らしのすぐそばにあり、成田山鳥獣保護区として大切にされています。

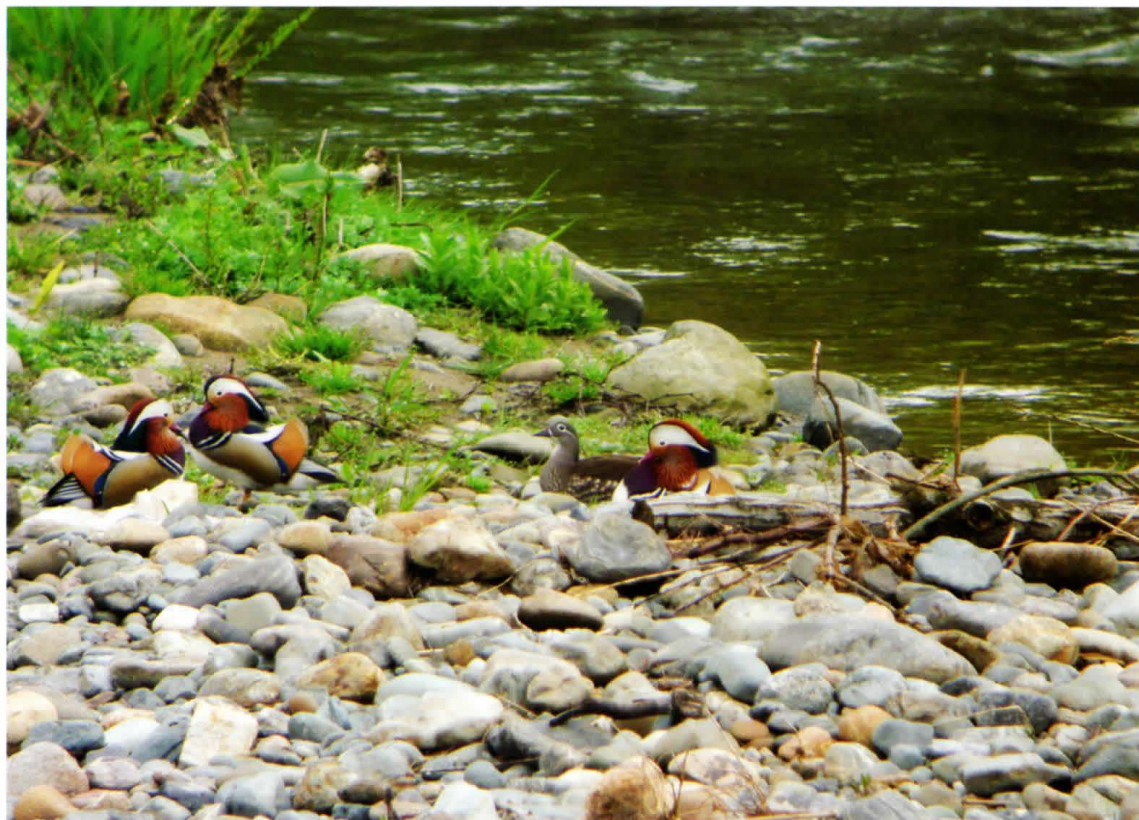
川を眺めるには十分な広さの歩道のある橋が町の中心部に1 km程度の間隔で3本あ

り、それぞれの特徴ある環境がゆっくりと楽しめます。

中でも私達のお気に入り、3本の真中にある新柳生橋で、上流右岸には小さなヨシ原にクルミやヤナギが間隔をおいて立ち、左岸の橋付近にはヤナギの低木に囲まれた入り江のようになった場所があります。この奥からは水が湧いているようで、真冬でも水面の雪が解け、あざやかな緑の草が見えます。水の中には水草など川の本流とは違った環境が季節によらず安定して存在しているようです。この場所では春になると生い茂ったヤナギに周囲を囲まれ、餌場の機能だけでなく鳥達の子育てや休息場所として利用され、多くの野鳥の様々な生態を、橋の上からよく見ることが出来ます。



いつも観察している新柳生橋から見た魚野川の上流方向。右端が湧き水の入り江。正面の山は越後三山。



春のオシドリ。3月下旬頃から複数のオスがメスと一緒にいる場面をよく目にします。

魚野川での四季の野鳥

ここでは中流域の河川で見られる水辺の鳥に加えて、すぐ近くにスキー場や公園のある標高 200 m 程の丘陵地帯にいる鳥も見ることが出来ます。

春の魚野川では残雪の量によらず3月下旬にツバメが飛来し、カワセミやオシドリのカップルが、まだ緑の少ない川原に彩りを添えます。観察している周辺では、数番がほぼ毎年繁殖し、親鳥と一緒に枝に並んでとまるカワセミの幼鳥や中州で母オシドリに見守られて昼寝する兄弟が日々育って行く様子などが見られます。

山に夏鳥が渡って来る頃には、ノビタキやキアシシギなどが通過して行き、やがてオオヨシキリの声が聞こえ、子沢山のカルガモ家族が入り江に見え隠れして夏がやって来ます。季節が進み稲刈りの頃になると右岸の田んぼに数百のニューナイズズメがブランド米に群がり、左岸側の山にはサシバが気流に乗って

渡って行きます。

カシラダカなどが見られモズの高鳴きが盛んになると、カイツブリ、コガモ、カワアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロなどのカモ類が増えて来ます。越後三山が雪で白くなり始めると、大ききで目立つカムリカイツブリ、目まぐるしく向きを変えて飛ぶハマシギの群れ、強力に水をはじく体で川底をつつくカワガラスなどが観察されます。

冬期にはアカエリカイツブリ、コハクチョウ、ヨシガモ、ハシビロガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ヤマセミなどを少ないながらも見るがあります。そして雪が深くなると、魚野川ではオジロワシ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウなど餌を求めて来る猛禽類を多く目にするようになります。

積雪の多い魚野川では雪景色の中で姿を隠せる場所が少なくなる為遠くの鳥も見やすくなります。さらに背景の白にそれぞれの種類

の色が浮き立つように見えて寒い中でも頑張って観察しているご褒美をもらえた気分になります。(逆にダイサギ、コサギはこの時期だけ見事にカモフラージュしています。)

カワウについて

ここ数年の魚野川で一番大きな変化と言えばカワウの数です。

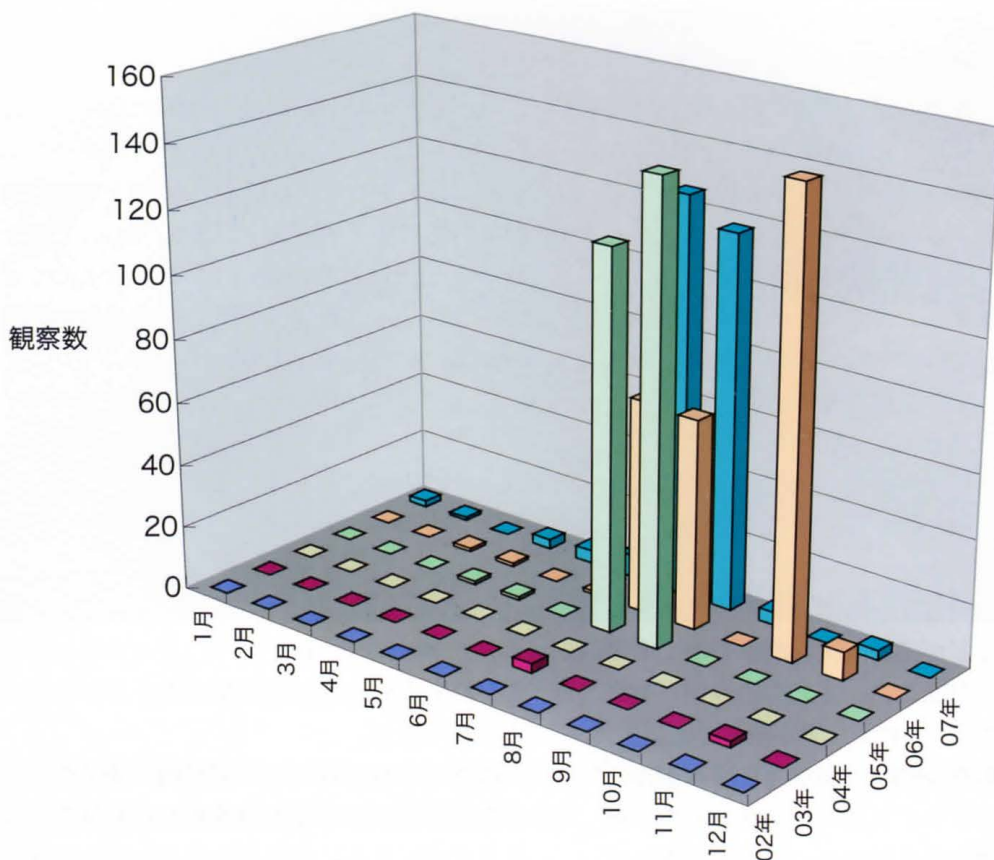
2005年の春までは稀に1羽見られる程度だったのが、グラフで示すように100羽を超える群れが7月から10月にかけてやって来るようになりました。群れは朝同じ頃に見たものですが、飛んで来るのは上流から下流から両方の場合があります。一昨年からは通年数羽単位で飛んでいるカワウの姿が普通に観察されるようになりましたが、今のところ魚野川の観察している周辺では繁殖やねぐ

らは確認されていません。

鮎釣りが名物でもある魚野川で夏場カワウの大群が飛来する事態に漁業や観光関係者などが神経を尖らせていますが、2007年の夏は鮎がよく釣れたと言う話を多く聞きました。どうやら見られるカワウの数と漁業への影響は単純な関係ではないようです。

急に増えた魚野川のカワウはどこから飛んでくるのかという疑問に対して「青RF」の標識カワウが貴重なヒント与えています。この個体は2006年7月1日に琵琶湖竹生島で標識されたヒナのうちの1羽で、2006年10月21日に魚野川の橋の上から観察する事が出来ました。移動の経路はわかりませんが生まれて数ヶ月の間で直線距離300km以上を飛んで来たということになり、普段目にはしているカワウの中には遠くから飛んで来たものがあるのかも知れません。

魚野川のカワウ月別最高観察数 (2002年～2007年)





カワウの群れ。集団で魚を捕っているところ。潜るとほぼ毎回魚をくわえて上がって来ていました。



カルガモが魚を捕って飲み込む瞬間。
2日間続けて魚を捕る様子が観察されました。



2008年1月からしばらく魚野川で見られた
ハチジョウツグミ

マイフィールド魚野川の魅力

魚野川周辺には多様な環境がコンパクトに集まっていて、毎日のように見えても簡単に飽きることはありません。例えば波の穏やかな澄んだ水に潜るカイツブリを橋の上で真上からの視線で見ると、飛ぶときには重そうにぶら下げている大きな足が水の中で泳ぐ推進力として立派に働いて予想外の俊敏さで泳ぎ回っている様子がわかります。しぶきを上げて潜るようなしぐさをしたと思ったら魚をくわえて飲み込んでしまうカルガモなど、珍しいと思わない鳥でも、よく見ていると新たな発見があります。

雪の上のコジュケイなど積雪地では珍しいといわれる種類や8月のカワアイサのような時期はずれな出会いなど観察の励みになることも時には遭遇します。

この冬の魚野川では橋付近にしばらくいたハチジョウツグミが注目を集めていました。

6年間魚野川に通って観察出来た種類を数えてみたところ、丁度100種類となりました。

今年も日が長くなり始め、冬季間休んでいた出勤・通学前の毎朝の観察を再開できるのが楽しみです。

今冬、ケアシノスリ当り年

新潟市 佐藤 吟一

この冬は、ケアシノスリの当り年といわれています。私もここに紹介するように観察し、撮影できました。



電線に止まっている写真は2008年1月20日新潟市西区で撮影。他は1月13日長岡市の信濃川河川敷で撮影しました。

ケアシノスリは、例年冬鳥として渡ってきますが、その数は全国的にも少なく、県内も同様で、出会う事は極稀なことでした。

ところがどうした事か、今冬は異常とも思われる数が全国で報告され、県内でもたくさんの人が観察されたようです。(編集部)

みんなでクロサギを見た寺泊探鳥会



有意義な1日を過ごすことができました。

さて1980年から始まった寺泊港・出雲崎港探鳥会は今年で28回目を数え（1996年は大雪のため中止）、県支部では最長の探鳥会となっています。観察種数も合計で84種のほり、会員みなさんで継続観察して得られた結果は貴重なデータとなっています。そこでこれまでの観察結果を別表のようにまとめてみました。

2008年2月3日（日）、定例の「厳冬日本海寺泊港・出雲崎港海鳥探鳥会」が開催されました。長岡市立寺泊分化センターに参加者40名が集合し、担当幹事から説明を聞いた後車に分乗して寺泊港に到着、おだやかな天候の中、探鳥会が始まりました。

寺泊港内でウミアイサやアカエリカイツブリを観察した後、寺泊水族館脇に移動しテトラポットに群れるカモメ類の観察を始めたところ、Sさんが「岩場にクロサギがいる。」と教えてくれました。みんなで一斉に水族館裏浅瀬の岩場を探すと、1羽のクロサギが岩の波打ち際に静かに立って水面を見つめていました。クロサギの体色が黒い岩に溶け込むようになかなか見つけにくく、ようやくスコープに捉えて交代で観察し、全員が確認することができました。クロサギは県内では個体数が少なく、なかなか出会えない鳥で、寺泊探鳥会では15年ぶりに観察されました。その後、沖合いの波間に見え隠れするウミスズメや、出雲崎港でアビやカモメ類を観察してセンターに戻りました。恒例のタラ汁で昼食を食べたあと、鳥合わせを行い29種の出現種を確認したのち、各地の情報交換を行い、

年により天候や参加者数など条件が異なるものの、30年近くの出現種の推移を見たり、80年代に観察されたクロガモとビロードキンクロは91年以降確認されていないなどの変化を読み取ることができます。今後も継続して探鳥会を開催し、貴重な観察記録をさらに充実させていくことが大切であると思います。会員皆様のご参加ご協力をよろしくお願いいたします。（事務局）



うれし、はずかし、みんなに見つめられた当日のクロサギ

日本野鳥の会 新潟県支部 寺泊港

種名	80.2.17	81.2.8	82.2.7	83.2.6	84.2.5	85.2.10	86.2.16	87.2.15	88.2.21	89.2.26	90.2.4	91.2.3	92.2.2	93.2.7
1 アビ				○										
2 オオハム					○									
3 シロエリオオハム													○	
4 カイツブリ	○		○			○								
5 ハジロカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
6 ミミカイツブリ			○						○					
7 アカエリカイツブリ	○		○	○	○									
8 カンムリカイツブリ								○	○	○		○		○
9 カワウ														
10 ウミウ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11 ヒメウ			○	○	○						○			
12 ダイサギ						○								
13 コサギ		○												
14 クロサギ	○				○		○			○	○		○	
15 アオサギ														
16 コクガン		○												
17 ヒシクイ														
18 オオハクチョウ														
19 マガモ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
20 カルガモ	○	○	○				○			○	○	○	○	○
21 コガモ						○								
22 ヨシガモ														
23 ヒドリガモ														
24 オナガガモ		○				○				○	○			○
25 スズガモ													○	
26 クロガモ	○	○	○	○		○	○				○			
27 ビロードキンクロ	○	○	○	○		○					○			
28 シノリガモ		○				○			○					
29 ミコアイサ	○													
30 ウミアイサ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31 カワアイサ						○	○	○	○	○	○	○	○	○
32 トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33 オジロワシ											○			
34 ハイタカ	○													
35 ノスリ		○					○				○		○	
36 ハヤブサ														
37 チョウゲンボウ													○	
38 キジ		○				○	○							
39 シロチドリ	○					○							○	
40 タゲリ		○				○							○	
41 トウネン				○										
種名	80.2.17	81.2.8	82.2.7	83.2.6	84.2.5	85.2.10	86.2.16	87.2.15	88.2.21	89.2.26	90.2.4	91.2.3	92.2.2	93.2.7
42 ハマシギ			○										○	
43 ミツユビシギ	○													
44 イソシギ			○											
45 ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
46 セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47 オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48 ワシカモメ			○				○							
49 シロカモメ						○	○		○					○
50 カモメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51 ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52 ミツユビカモメ						○	○		○					
53 ウミスズメ			○	○										
54 キジバト		○			○							○		
55 カワセミ	○													
56 アカゲラ														
57 ヒバリ			○											
58 ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59 セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
60 ビンズイ	○													
61 タヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62 ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63 モズ		○											○	
64 ジョウビタキ			○		○									
65 イソヒヨドリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
66 シロハラ	○													
67 ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68 ウグイス							○		○		○	○	○	○
69 エナガ	○													
70 シジュウカラ	○				○								○	
71 メジロ														
72 ホオジロ		○										○		
73 カシラダカ						○								
74 カワラヒワ	○			○				○						
75 マヒワ														
76 ハギマシコ	○													
77 ベニマシコ	○													
78 ウソ		○												
79 シメ	○	○												
80 スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
81 ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82 オナガ					○									
83 ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
84 ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計(種)	37	35	31	27	31	29	29	18	24	22	25	23	28	22

・ 出雲崎港探鳥会確認種

													○：確認		種名	
94.2.13	95.2.5	97.2.2	98.2.1	99.2.7	00.2.6	01.2.4	02.2.3	03.2.2	04.2.1	05.2.6	06.2.6	07.2.4	08.2.3			
					○			○	○				○	1		アビ
														2		オオハム
														3		シロエリオオハム
														4		カイツブリ
○	○	○	○			○		○		○	○	○		5		ハジロカイツブリ
								○	○					6		ミミカイツブリ
○	○	○			○	○		○	○	○			○	7		アカエリカイツブリ
○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	8		カンムリカイツブリ
○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	9		カワウ
○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	10		ウミウ
									○					11		ヒメウ
														12		ダイサギ
								○						13		コサギ
													○	14		クロサギ
										○			○	15		アオサギ
	○	○		○										16		コクガン
									○					17		ヒシクイ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	18		オオハクチョウ
														19		マガモ
														20		カルガモ
					○									21		コガモ
							○							22		ヨシガモ
												○		23		ヒドリガモ
													○	24		オナガガモ
														25		スズガモ
														26		クロガモ
	○			○		○								27		ビロードキンクロ
														28		シノリガモ
														29		ミコアイサ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		ウミアイサ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	31		カワアイサ
														32		トビ
														33		オジロワシ
														34		ハイタカ
														35		ノスリ
	○							○						36		ハヤブサ
		○												37		チョウゲンボウ
														38		キジ
														39		シロチドリ
														40		タゲリ
														41		トウネン
94.2.13	95.2.5	97.2.2	98.2.1	99.2.7	00.2.6	01.2.4	02.2.3	03.2.2	04.2.1	05.2.6	06.2.6	07.2.4	08.2.3			種名
														42		ハマシギ
														43		ミツユビシギ
														44		イソシギ
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	45		ユリカモメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	46		セグロカモメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	47		オオセグロカモメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	48		ワシカモメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49		シロカモメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50		カモメ
														51		ウミネコ
														52		ミツユビカモメ
														53		ウミスズメ
○			○		○					○			○	54		キジバト
														55		カワセミ
														56		アカゲラ
														57		ヒバリ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	58		ハクセキレイ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	59		セグロセキレイ
														60		ビンズイ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	61		タヒバリ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	62		ヒヨドリ
														63		モズ
														64		ジョウビタキ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	65		イソヒヨドリ
														66		シロハラ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	67		ツグミ
														68		ウグイス
														69		エナガ
	○		○		○					○			○	70		シジュウカラ
														71		メジロ
	○				○									72		ホオジロ
														73		カシラダカ
														74		カワラヒワ
														75		マヒワ
	○													76		ハギマシコ
														77		ベニマシコ
														78		ウソ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	79		シメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	80		スズメ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	81		ムクドリ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	82		オナガ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	83		ハシボソガラス
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	84		ハシブトガラス
23	29	28	26	30	29	25	25	28	30	31	25	19	29			合計(種)

朝日池に 25 羽のハクガンの群れが渡来

平成 19 年 11 月 23 日、恒例の朝日池探鳥会が開催されました。はじめに「25 羽ハクガンが来ている」の情報を聞き、参加者たちの期待が高鳴ります。

10 時 58 分、餌場から次々とマガン、オオシクイの群れが戻って来る中に、ひときわ目立つ白いハクガンの群が戻って来ました。映画のワンシーンでも見ているようで、感激、感激の声があちこちから聞こえた探鳥会でした。

ハクガンの観察と、その情報収集している上越市の山田雅晴氏に聞きました。今シーズンのハクガンの朝日池への渡来状況は、以下の様であったそうです。

初認は 19 年 11 月 23 日朝に 25 羽（成鳥 9 羽、幼鳥 16 羽）の群。これが 12 月 11

日まで滞留し、降雪により一旦秋田の方へ戻ったが、翌 20 年 1 月 14 日には 6 羽（?）、19 日には 9 羽（成 3 羽、幼 6 羽）が観察されている。

1 月 20 日には当初より 1 羽少ない 24 羽（成 8 羽、幼 16 羽）となり、2 月 10 日まで滞留。

2 月 11 日には半分の 12 羽（成 2 羽、幼 10 羽）しか観察されなかったが（この間、福島潟の方で 12 羽が観察されている）、2 月 23 日には又 24 羽（成 8 羽、幼 16 羽）が観察された。

山田氏の観察はここまでとのことですが、12 月 11 日～1 月 19 日のあたりのことは、今後他の地の情報も集めて、確かなものになりたいとのことでした。（編集部）



ハクガンの飛翔 19年11月23日撮影 バックの山は米山

2 枚の飛んでいるハクガンの写真は、探鳥会の時にコンパクトデジタルカメラで写したものです。25 羽いた証拠写真になればとトリミングしました。



25羽のハクガンの飛翔



11月23日の探鳥会風景



アメリカコハクチョウ19年11月25日撮影



マガンやオオヒシクイの群と憩うハクガンの群 19年11月25日撮影

探鳥会の日にいた珍鳥サカツラガンを撮影できず、11月25日に再度挑戦しましたが、その日も失敗。でも優雅に水面に憩うアメリカコハクチョウと、ハクガンの群を撮ることができました。(撮影編集部)

福島潟に珍鳥シジュウカラガンの群れの群れ



写真は、水の駅「ビュー福島潟」提供

平成20年2月6日、福島潟に24羽のシジュウカラガンの群れが渡って来ました。

これまで県内には少数渡来した記録はあるものの、これだけの数が渡来したのは初めてです。噂を聞きつけ、みごとカメラに収めたラッキーな人もいたようです。

(編集部)

訂正とお詫び

支部報 No.64 に下記の誤りがありました。訂正してお詫び致します。

支部報 No.64 正誤表

ページ	部分	誤	正
1	写真上	2007年7月30日	2007年8月14日
1	写真下	2007年8月14日	2007年7月30日
7	右欄下から3行目	付表-4	付表-3
8	図-12	杉が高さ10m	杉が高さ10m
8	図-13	2007年7月20日	2002年7月20日
8	付表	付表4	付表3

発行 2008年3月31日 No.65

発行人 大島 基 編集者 小林成光、浦部良雄、千葉 晃

日本野鳥の会新潟県支部

事務局 〒950-0941 新潟市女池3丁目13番25号

TEL 025-285-2405 本間由紀子方 〈振替口座〉00610-1-6002